

学校長



横浜 f カレッジ

令和 2 年度学校関係者評価委員会報告書

1. 学校関係者評価委員会実施要領

日 時	令和 3 年 7 月 21 日 (水) 14:00~15:30	
場 所	Zoom を利用したオンライン開催	
出席者	学校関係者評価委員	青木 和宏 株式会社高島屋 執行役員 横浜店長 那須野 教恵 神奈川県教育委員会 教育局 総務室 専門員 (前 県立高等学校 校長) 夏目 哲宏 株式会社ブライト 代表取締役 萩平 勉 一般財団法人ファッショングラント 産業人材育成機構 理事長 三根 真吾 合同会社 アタシ社 代表社員 (卒業生) 吉原 直樹 株式会社 アルテサロンホールディングス 創業会長 CEO
	教職員	岩崎 有紀子 横浜 f カレッジ 学校長 西木 祐子 横浜 f カレッジ 教務部 部長 江波戸 秀樹 横浜 f カレッジ 教務部 次長 市川 祐三 横浜 f カレッジ 教務部 参与 菊池 好道 経営企画部 企画課 兼 横浜 f カレッジ 教務部 教務課 課長 角館 裕美 横浜 f カレッジ 教務部 教務課 課長 別所 慶子 横浜 f カレッジ 教務部 教務課 課長補佐 (司会進行) 森山 光子 横浜 f カレッジ 教務部 教務課 課長補佐 藤重 寛志 横浜 f カレッジ 教務部 教務課 主任 佐々木 瞳美 横浜 f カレッジ 教務部 教務課 主任 増田 隆司 横浜 f カレッジ 教務部 広報学生課 課長 (議事録)
資 料	・令和 2 年度自己点検評価表 ・令和 2 年度自己点検評価報告書	

2. 自己点検評価報告および各項目に対する学校関係者評価

2-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は明確か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 	<p>・本学園の理念である「人財育成を通した地域社会への貢献」のもと、①感性の向上 ②高度な技術力の習得 ③豊かな人間性の涵養 ④プレゼンテーション能力の育成の4つを教育目標に掲げ、ファッショングループ、美容、ブライダル、ジュエリー分野の人財育成に取り組む。</p> <p>・2027年の岩崎学園100周年を見据え、中期事業計画「One IWASAKI 2027」が策定された。中期事業計画は、学生・園児・教職員にとって『楽しさ』の仕掛けづくり、『発想力豊かな人材』の育成、迅速で無駄のない『グループ経営』の推進、『新しい事業』の構築を方針としている。それに伴い、学園本部および姉妹校を横断するプロジェクト（IR推進委員・基盤教育・オンライン教育・国家試験対策・教育環境整備等）が組織され、本校からは、若手、中堅教職員がプロジェクトメンバーとして積極的に参加し、新しい教育の立案推進に携わる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

2-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか 	<p>＜運営方針＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学園理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し教育活動を行った。 ・令和2年度の事業計画は、個人の業務計画・目標にも落とし込みを行い、期首・中間・期末での振り返りを実施。グループリーダーとの面談を通じ、教職員の育成にも傾注。 <p>＜情報のシステム化と業務の効率化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学園全体でオンライン授業の導入が進んだことから期中より、オンライン教育に対応した新たなLMS (Learning Management System) を導入。教育データを蓄積できる状況になっているので、今後は教育効果を上げるための具体的な活用方法を検討し、日々の授業に反映することが課題。 <p>＜働き方、健康管理＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染拡大防止、学生および教職員の安全と健康を守るために、オンライン授業の活用と、教職員の在宅ワークを推奨。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、消毒液の常備に加え、教職員を対象とした抗体検査や、教職員と新入生希望者に対してPCR検査キットの無償配布を実施。 	<p>＜運営方針＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>＜情報のシステム化と業務の効率化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の授業に活かしたり、学生が企業の動向を調査したりするために、企業とのネットワークをつくり、SDGsなどの今日的課題や就職に関することなど、今必要な情報をオンラインでリアルタイムにアンケートなどで収集する仕組みがあるとよい。 <p>＜働き方、健康管理＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な業務が増えていて、コロナ禍で、今までないような業務や課題を検討し、実施しているが、緩急をつけながら業務に取り組めるとよい。

2-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか 	<p>＜教育課程の編成・実施方針＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを策定し、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」の見直しを実施。 ・年2回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、両グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進。 <p>＜オンライン授業の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染防止や緊急事態宣言の発令を受け、本学園の新たな教育の特徴として、急速にオンライン授業の推進が図られた。本校も、オンライン授業の推進にあたっては、教材のデジタル化を行うとともに、教員間の教材共有や学科を越えた教材共有を活発に実施。 <p>＜令和4年度に向けた、学科横断的な共通カリキュラムの検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の導入をめざし、①学生に分かりやすく、②時代の変化の中でも通用する、③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムの再編に着手。 <p>令和2年度は、令和3年度から学内共通科目として導入する3科目「クラスアクティビティ」、「サービストレーニング」、「ITリテラシー講座」のカリキュラム開発を進めた。</p>	<p>＜教育課程の編成・実施方針＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍では、美容室は環境衛生業という点が再認識され、安全・安心の体制を整え、対策をとっていくことが必要。だから、美容師養成課程でも、美容師は環境衛生に携わるものである自覚を持たせる教育を改めて行っていただきたい。 ・多様性の受容やハラスメント対策など、働く環境も大きく変化している。その中で、一方通行の思考になってしまふと身動きが取れなくなってしまう。学生時代から、法律的に絶対に越えてはいけないラインがあることに加え、価値観の違いや多様な考え方方が世の中にあることの両面を学んでおくことは大切だと感じる。 <p>＜オンライン授業の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭によっては、Wifiなどの通信環境が整っていないところもある。学生の状況を丁寧に汲み上げていくことが必要。また、様々な視点や対応が必要であることを学生にも提示し、学生が社会人になったときに社会に還元できるような教育をしてほしい。 ・対面授業では1対40だが、オンライン授業では画面上で1対1の関係を構築できたり、録画して復習に活用できたりするなどのメリットもある。これから社会では、オンラインツールの活用も進んでくると思われるため、授業以外の企業見学などにも活用の幅を広げられるとよい。 ・DXといわれる時代。美容業はアナログな業界といわれるが、デジタルシフトしていくかないと通用しない。販促、採

<ul style="list-style-type: none"> ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか 	<p><産学連携・インターンシップの体系化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、これまでの実績を踏まえ、継続的に実施できた産学連携やインターンシップが多く、学生には実践的な学びの場となった。また、産学連携からインターンシップや、採用に発展するケースもあり、学生の意欲向上にもつながっている。 産学連携の取り組みの形態は様々だが、企業提示の課題に企画段階から参加し、実社会で商品化される等、実践的な内容の取り組みも定着してきている。また、環境問題やヘアドネーション等、現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組みも継続できた。 <p>■以下連携事例について詳細を報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘアドネーション「キレイの力」プロジェクトに姉妹校と参加 ・ミライロ、サロンとユニバーサルサービス企画で連携。本学園のプレゼンコンベンション「Icon」でプレゼン。 ・ブリッジクマモトとリサイクルワークショップ ・エイベックス、ユーカスと、AR アーティストの衣装デザインを実施 ・近沢レース店と連携しオリジナルエコバッグを商品化 ・マイナビウエディングとの連携で、InterFMのラジオ番組の制作参画 ・横浜高島屋との連携 	<p>用、スタッフの教育等、デジタルを活用していく美容サロンは生き残れないと実感している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権など、学校の授業だから許されているものもあるが、学校活動の中で何かの権利を侵害したり、法令に抵触したりする可能性はある。学校の中でどんな法令が関係しているのか一度リストアップし、チェックする。リストアップされているのであれば、年に1回、法律改正が行われていないかチェックするなどしていく体制があると有益。 <p><令和4年度に向けた、学科横断的な共通カリキュラムの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の仕組みなどを活用して、学科横断の授業を検討するのもよい。 <p><産学連携・インターンシップの体系化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Iconを視聴して感じたことは、クオリティの高さと真剣勝負のプレゼンテーションだったということ。日々の研究成果とともに、発表後の成長に期待したい。 ・販売業では、研修の一環としてOJTを大切にし、場数を踏むことが企業人としての成長にも欠かせない。インターンシップは、そのような体験を学生時代からできるので、今後も、現場でしか感じることのできないインターンシップと一緒にやっていけたらと思う。 ・コロナ禍における顧客への衛生意識や、新しい顧客とながるシステムなど、現在の世相を反映する授業を組み込んでいくことが、学生にとりリアリティがあり、ためになる授業と考える。
--	--	---

2-4. 環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 	<p><施設・設備></p> <p>コロナ禍の中、本学園のオンライン授業推進の方針のもと、既に学生にノートPCを貸与していたファッショング系3学科に加え、美容系2学科、ブライダル科の全学生にノートPCを貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整備。</p> <p>令和3年度に向け、就職活動におけるオンライン面接等に対応するため、学内に個室型ワークブースの設置を計画。</p> <p><海外研修></p> <p>新型コロナ感染拡大により、例年実施していたブライダル科のハワイ研修は中止とした。</p>	<p><施設・設備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビューティースタイリスト科は設置当初より在籍数が多くなっているため設備面の拡充が必要ではないか。また、在校生がインターンシップを行える美容室の設置を検討してはどうか。 <p><海外研修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の美容室などとオンラインでつなぎ、オンライン海外授業を実施する。学生と海外の方とのコミュニケーションを通じ、語学力が必須であると実感させることも大切である。

2-5. 学習成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 	<p>＜内部特待生制度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度より、本学園のすべての専門学校に在籍する進級学生を対象に、「内部特待生制度」が導入された。内部特待生は、学内イベントはじめ外部コンテスト、インターンシップ等への自発的、積極的な参加を通じリーダーシップの発揮や職業人への成長を期待され、当該年度の学費から 40 万円が免除される特典を付与。 <p>■就職実績・資格取得・コンテストについて詳細を報告</p> <p>＜就職実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度は、コロナ禍により、本校関連業界が、大きなダメージを受ける中、求人数が減少。就職指導部では、エージェンシー主催の合同企業説明会が次々と中止となる中、これまでつながりある企業と交渉し、本校独自のオンラインセミナーの開催や、新規企業の求人開拓に努めた。 <p>【令和 2 年度就職実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職率 93. 2% (就職希望者 264 名、就職者 246 名) ・就職希望せず 35 名 <p>内訳：専門業界アルバイト 11 名、アルバイト 11 名、進学希望 1 名、美容師国家試験不合格 2 名、U ターン 3 名、健康課題等 2 名、その他 5 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職未内定者に対する卒業後の就職支援制度を創設。令和 3 年 7 月 8 日現在、17 名が活用し、内 3 名が就職。14 名は就職活動を継続。 	<p>＜内部特待生制度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>＜就職実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動におけるナレッジ共有を、クラウドなどを活用して構築。学生がいつでも・どこでもナレッジを引き出せるようにしておくとよい。 <p>＜資格取得・コンテスト＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美容師国家試験は、まじめに勉強をしていれば合格できる試験だと思っている。合格率が 79% というのは厳しく見たほうがよい。合格率 100% を目指して授業を行うべきだと思う。 ・卒業後の国家試験支援制度はよい制度。国家試験に落ちている学生たちは挫折感を味わっているので、それを盛り返すモチベーションアップの仕組みも作っていくとなおよい。 <p>＜退学者＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

<p><資格取得・コンテスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標としてカリキュラムの中に計画的に資格取得を配置し、専門知識、技術の確実な習得をめざすとともに、合格により達成感を体感し、次のステップへの意欲醸成につなげている。 <p>①美容師国家試験合格率：79.4%（前年度92.6%、全国平均85.1%）。</p> <p>コロナ禍でオンラインを併用した国家試験対策となった。登校が制限される中、実技、筆記とも習熟が遅い学生の引き上げが不十分で不合格者を出してしまった。</p> <p>令和2年度、国家試験不合格者に対し、卒業後も国家試験対策を実施する制度を新設。</p> <p>②ブライダルコーディネート技能検定3級合格率：90.3%</p> <p>国家検定であるブライダルコーディネート技能検定3級は、これまで2年次の受験していたが、令和2年度生より1年次で受験できる体制を整えた。これにより、2年次に2級資格を取得することができるようになり、学生の資格取得への意欲向上につながった。</p> <p>③第17回ビジネスプロデュースコンペティションへの応募</p> <p>ファッションライフデザイン学科3年生の3チームが応募し、「準グランプリ」「マーケティング賞」「アイデア賞」を受賞。</p> <p><退学者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・退学率7.5%（前年11.3%） 	
---	--

2-6. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか ・防災に対する体制は整備されているか 	<p>＜学生相談＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数の人間で対応。 <p>＜経済的な支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン教育の導入に伴う家庭での負担軽減のため、「通信環境支援金」として全学生に1万円を支給した。また、コロナ禍で家庭の収入減や、アルバイトの機会が減少したため、学費、教材費の納入期限を延長し、特例的な分割納入も認めた。 ・令和2年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。初年度の対象者は、全体の9.3%だったが、制度の浸透とともに割合が増えることが予測されている。制度の手続きが煩雑なため、学内の運用の整備、学生事務の整備が課題。 ・給付型、貸与型と様々な支援策があり、また、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦労を抱える学生は少なくない。経済的な理由による退学は14%。 <p>＜保護者との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、ホームページ上に「新型コロナ感染症に対する本校の対応について」ページを作成し、その都度、必要な情報発信を実施。前期、後期の成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに書面にて発送。また、ビューティースタイリスト科では、毎年、国家試験課題発表時に対面での保護者会を行っていた 	<p>＜学生相談＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>＜経済的な支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>＜保護者との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報伝達の徹底には、繰り返し伝えることが大切。一度通知を出してしまえば、それで終わりという認識では、情報伝達の徹底にはならない。同じような内容でも、常に繰り返し、分かりやすく、かみ砕いて、伝えることが必要である。 <p>＜防災体制＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

	<p>が、今年度は、オンラインで実施。実施後一定期間 YouTubeにて配信。</p> <p><防災体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・激甚災害行動マニュアルを策定し運用。 ・メールによる緊急連絡網「ビューン」を活用し、台風、降雪等の荒天時の教務部判断を設け対応。 	
--	--	--

2-7. 学生の受け入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか 	<p>■学生募集活動について以下詳細の報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度入学生は、460名（前年438名）で堅調に推移。 ・令和2年度生より入学定員数を160名としたビューティースタイリスト科の入学者数は157名でほぼ定員充足となった（出願数は162名） ・コロナ禍の中、対面形式の進路活動の機会が減り、職業や学校の学び方への理解不足が生じる可能性があるため、職業や学校の特徴の理解を促すための情報発信の工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

2-8. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか 	<p>財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

2-9. 法令順守

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置や運営に関する法令を遵守しており、神奈川県の認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を実施。 ・個人情報保護については、本学園ホームページで公開している個人情報保護方針に則り行っている。 ・平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員会を開催し専門的かつ客観的な意見を聴取。また、議事録をホームページ上で公開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

2-10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか 	<p><学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜実践看護専門学校と連携したヘアドネーションへの協力や、熊本の震災で使用されたブルーシートのリサイクル活動等を継続時に取り組んでいる。令和2年度は、SDGs等をテーマに活動するサークルを設立。学生が主体的に活動できる環境が整いつつある。 ・コロナ禍の影響もあり、年度当初に予定していた社会貢献や地域貢献の活動そのものが中止となってしまい、活動の機会が減少。 <p><地域に対する公開講座・教育訓練の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生向け講座「仕事のまなび場4講座」・「総専協夏季公開講座2講座」・「服飾・美容分野単位認定講座（1講座）」、鎌倉湘南地区高校連携講座「ブライダル関連のキャリア教育」など、複数の講座を予定していたが、コロナ禍の影響もありすべて中止。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

以上

教務部長	作成者
	